城北防災だより

2023/12/5
６５号
城北地区防災対策協議会
事務局：城北地区公民館

「真備町に学ぶ防災研修」に行ってきました！！（報告）

平成に入って、最も多くの犠牲者が出た西日本豪雨から5年。その被害の多かった真備町を視察(12月1日)してきました。　約5500戸が全半壊。　犠牲者51人。　亡くなった人の8割以上が、70歳以上の人で、逃げ遅れによるものでした。　一戸建て住宅の1階から、多くの遺体が見つかったそうです。

原因は、真備町を流れる一級河川の「高梁川」の上流に降った雨によって、水位が上昇し、支流の小田川の水が、本流の高梁川に流れにくくなり、水が逆流する「バックウォーター」と呼ぶ現象を引き起こし、8カ所の堤防が決壊したことによる氾濫でした。
深いところで、約5.4メートル浸水しました。真備町の24時間雨量は、361.5ミリでした。

ところで、これは他人事ではなく、城北地区でもこの時、24時間雨量236.5ミリ降っていました。千代川の水位が上昇し、ピークに達した、7月7日午前1時20分には、「危険氾濫水位」を越えて、6.03ｍに達していました。支流の袋川の水が、本流の千代川に流れにくくなり、袋川と合流する狐川でもバックウォーターを防ぐ措置がとられ、ギリギリのところで難を逃れました。城北地区は3ｍ～5ｍ浸水し、真備町と同じような被害が出るところでした。

さて、その後、真備町では減災対策が急ピッチで進められてきました。

ハード対策

①小田川と高梁川の合流点を下流側に付け替えて、小田川の水位を下げる「付替え工事」と、堤防の嵩上げ、河道の掘削工事の様子を、目の当たりに視察しました。

ソフト対策

橋脚に堤防と同じ高さの**オレンジライン**を描いて、防災意識の向上に努める

■水防災意識社会の再構築に向けての取り組み

①逃げること(命をつなぐこと)への意識向上
「住民の逃げ遅れゼロ」をスローガンに「声かけ避難」の重要性を呼びかける。
＊地域連携型「マイ・タイムライン作成ヒント集」配布・DVD制作

②地域内のコミュニケーションの活性化（顔の見える人間関係づくり:行事の充実）

③避難行動の仕組みの構築（隣近所の安否確認システムの構築）
＊「黄色いタスキ大作戦」;地域住民に「無事です」と印字された黄色のタスキを配布し、いざという時に玄関先に結びつけて、隣近所に無事に避難していることを知らせる取り組み。

研修・訓練に最適：**『真備町発“地域防災”啓発動画〈DVD〉』（4枚）を貸し出します！！**

動画には、「まさか」が「現実」となった当時の状況･･･。「住民による住民のための防災活動」・「被災した悲しいだけのまちではない」ということを、そして教訓を次の世代に繋いでいこうとする真備町の人々の活動や熱い思いが、収められています。

防災を切り口に、障害者理解・認知症理解・高齢者等の人権の大切さ・町内の課題解決を考える切っ掛けに活用できます。

また、地域をつなぐ民生児童委員や町内会役員・住民の関わりについても、考える切っ掛けに活用できます。　　＊DVDタイトルは下記

■インタビュー形式：「逃げ遅れゼロ　備える　伝える　支え合う　つながり」・「繋」
■再現ドラマ形式：「岡谷さんのマイ・タイムライン」・「地域をつなぐ要配慮者マイ・タイムライン」

＊貸し出しについては、公民館にお問い合わせください。